

第2回益子町図書館基本計画策定委員会

日時 令和3年2月12日（金）

15時00分～17時15分

場所 中央公民館第1研修室

委員 18名 事務局 4名 アドバイザー2名 欠席者 委員2名

次第

1 開会

2 あいさつ

3 内容

- (1) 視察研修報告について
- (2) アンケートについて
- (3) ワークショップについて
- (4) 建設候補地について
- (5) その他

4 その他 次回会議日程について

5 閉会

1 開会

事務局 第2回益子町図書館基本計画策定委員会をはじめさせていただきます。

本日委員長が所用で遅れるとご連絡いただきましたので、当初、副委員長よりご挨拶をお願いします。

2 挨拶

副委員長 挨拶（省略）

事務局 ありがとうございます。アドバイザーは、県が特定警戒を発令していることから、webでの参加となります。一言ご挨拶を頂戴したいと思います。

アドバイザー 挨拶（省略）

アドバイザー 本日、当方のスタッフも参加させていただきます。

スタッフ はじめまして。アドバイザーとは会社が同じビルに入居してしまして、普段は町づくりに関連する仕事を行っています。

事務局 ありがとうございます。それでは早速ですが、内容にうつらせていただきたいと思います。ここからの進行を副委員長、よろしくお願いいたします。

副委員長 それでは議題（1）視察研修報告を事務局からお願いします。

事務局 それでは視察研修報告について説明します。資料はお手元の会議次第を開いて、視察一覧がご

ざいます。いままで、37か所の視察を行ってきましたが、そのなかで全てを紹介しきれませんので、特徴のある館をご紹介いたします。まず、武蔵野プレイスについて資料をもとに説明いたします。

H27年7月に武蔵野駅前にオープンしました。図書館以外にも、生涯学習の推進、青少年育成等の機能を持っている施設です。図書館は約14万5千冊の蔵書を有しており、600タイトルの雑誌や各種データベースを揃えています。

各階のレイアウトに4つの機能があります。市民活動支援では、数多くの市民団体が登録し、武蔵野プレイスを利用しています。青少年活動支援では、中高生を中心に居心地の良いフロアとなっております。生涯学習支援では、世代を超えた活動、交流の場となっております。武蔵野プレイスが出来たことをきっかけに、様々な行政サービスの提供や商業施設の充実等、中心市街地活性化に寄与する施設となっております。次に事務局より、報告させていただきます。

事務局 代わりまして、事務局から、図書館視察研修レポートという資料をもとに説明いたします。

新しい図書館を作るにあたり、他の自治体の図書館を学ぶことはとても重要なポイントとなります。

益子町では、全国の先進的・有効的な図書館を視察し、図書館業界における現状や課題を現地で体感し、「益子町らしい図書館」のデザインづくりに活かそうと取り組んできました。

そこで見えてきたのは、「図書館＝静かに本を読むところ」といったイメージはもう過去のもので、図書館をまちづくりの核として、町の活性化に取り組んでいる自治体が数多く存在するという事です。今回はこの場をお借りして、実際に視察した中でも特徴的な図書館を3か所抜粋して、紹介させていただきます。

まず一か所目は、岡山県高梁市にあります、高梁市複合施設 高梁市図書館です。

こちらは平成29年にオープンし、経営をカルチャー・コンビニエンス・クラブに委託しているいわゆるツタヤ図書館と呼ばれる図書館の1つになります。高梁市は人口約3万人、面積は546km²と岡山県で4番目に広い面積を有し、面積の約78%が森林となっております。

高齢化率は現段階で40%を超え、過疎化や少子高齢化が問題となっており、市の活性化を担う施設として、平成17年から図書館建設に向けた事業が動き出しました。

図書館はJR備中高梁駅に併設し、地方都市におけるコンパクトシティ化の事例として注目を集めています。館内にはスターバックスや観光案内所等のテナントが設置され、図書館でありながら市の観光・賑わいの重要な拠点となっており、オープンから1年たった平成30年度には、来館者数が100万人を突破。選書においてはCCCが独断で行うのではなく、市の資料収集方針に基づき、CCCが選書したリストを教育委員会にかける形となっております。資料の配架方法にもこだわり、「ライフスタイル分類法」という独自の配架方法を活用し、例えば、従来の釣りの本は産業、といったいわゆる分野ごとの配架ではなく、釣り＝アウトドアと生活様式に合わせた配架を実施しています。その他、利用者が「多くのきっかけと出会う」場所を目指し、毎月さまざまなイベントを企画。お年寄りだけでなく、子育て世代や中高生といった幅広い世代に活用されています。また、市内の遠隔地へのサポートとして、全国で初めて、移動図書館による食品や観光物産などの販売を実施。これにより、買い物が必要な地域や高齢者への支援が可能となり、移動図書館が人の集まる機会を創出しているとのことでした。

1階の一部がカフェスペース。館内はどこでも飲み物を飲むことができます。

建物の入り口入ってすぐのところに観光案内所があります。ここでは地域おこしや若い作家の企業支援として商品を販売。児童図書スペース。読み聞かせスペース（中央下）と児童図書スペースの間はテラスとなっており、子供が遊べる遊具が設置してあります。学習スペースなどは中高生の利用率が高く、

施設予約がない場合は会議室も開放します。1階の一部が本屋・カフェスペース。扱いとして、テナントはスターバックスが入り、場所の賃貸料を町に支払う形。蓋つきの飲み物であれば、館内はどこでも飲むことができます。

建物の入り口入ってすぐのところに観光案内所が。ここでは地域おこしや市内若手作家の企業支援として商品を販売。4階が児童図書のスペース。コンセプトは「感性をはぐくむ天空の公園」で、読み聞かせスペースと児童図書スペースの間はキッズテラスとなっており、子供が遊べる遊具が設置してあります。学習スペースなどは中高生の利用率が高く、施設予約がない場合は会議室も開放します。こちらが実際の配架された本の一部。このように、分野に縛られずライフスタイルに合わせた配架を実施されています。ちなみにこのコーナーは「住まいと暮らし」というコンセプトで作成されていました。

つづいて、同じく岡山県の瀬戸内市にあります、瀬戸内市民図書館 もみわ広場について

瀬戸内市は岡山県の自治体の中で、一人当たりの貸出冊数がワースト1位でしたが、このもみわ 広場ができたことによって、一人当たりの貸出冊数が10倍以上に伸びるなど、県内有数の 図書館へ生まれ変わりました。運営は指定管理ではなく、公共が直接雇用している職員で運営を行う「公設公営方式」を採用しています。もみわ広場の名前の由来ですが、こちらは「持ち寄り・見つけ・分かち合う広場」という コンセプトが込められており、市民のニーズを持ち寄り、その課題に対し図書館が持つ情報から 解決ヒントを見つけ、その情報を分かち合う、というメッセージが込められています。

ここでの特徴的な取り組みは、「としょかん未来ミーティング」という市民参加型による図書館 計画作りです。図書館計画を策定するにあたり、あえて策定組織を作らず、市民が自由に参加 できるワークショップを12回開催し、計画や設計に反映させていきました。

また、未来ミーティングの子ども編として、市内の中高生を公募し、企画運営委員会を実施。そこで、子どもたちの発案で、市内の学校でアンケートを実施したり、会議の中で出た意見を 図書館の設計に反映させて、「チャットルーム」やライトノベルを集めた棚を実際に設置しました。

このような取り組みが高く評価され、オープンした平成28年の翌年には、先進的な活動を行っている図書館に毎年贈られる、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」の大賞を受賞されました。また、瀬戸内市では図書館の開館準備期間中に移動図書館を導入。市内の全幼稚園・保育園を巡回し、「自分の街に図書館があったらどんな暮らしになるんだろう」という、本が身近にある暮らしを体験してもらうことで、図書館がまちにあるイメージを子供たちを通して家庭に根付かせることができたとのことでした。

そのほか、市では「認知症にやさしい街」をかかげ、市内保育施設、小中学校のほか老人ホームも移動図書館が巡回しています。その際、本だけでなく、郷土資料館にある昔ながらの道具を一緒に配送し、本と一緒に展示することでお年寄りとのコミュニケーションにつながっています。

備前焼のタイル…建物の南側壁面に市内の子供たちが作った備前焼のタイルを張り付け。

子育て世代への支援…ファーストブックやセカンドブックのほか、図書館司書の選書による年齢別の「読み聞かせセット」を貸出。そのセットを出入り口に設置することで来場者に分かりやすく啓発
テラス席…子供たちのワークショップにより「テラス席が欲しい!」という意見が出たことで実際に設置されました。こちらが館内の様子です。館内に郷土資料を展示することで、地域学習の推進をしているほか、こちらで展示している道具を移動図書館巡回の際に活用しているそうです。

建物の南側壁面には、市内の子供たちが作成した備前焼のタイルが張り付けてあります。

最後に、福島県須賀川市 須賀川市民交流センターtette です。須賀川市は東日本大震災によって甚大な被害を受け、特に市街地中心部においては被害が集中し、市民生活に重要な役割を果たしていた市庁舎や総合福祉センターを始め、多くの公共施設が 使用不可能な状態になりました。

そのような状態において、公共施設の再建による中心市街地の再生・活性化が震災復興の重要な課題となっていたため、復興のシンボルとして市民交流センターを整備されました。

整備に当たっては、既存施設の単なる建て替え・復旧ではなく、「創造的復興」を目指し、これまで総合福祉センターが担ってきた市民交流や子育て支援、市民活動支援の機能を継承するとともに、新たに図書館や公民館などの生涯学習機能、さらには賑わい機能などを併せ持つ集客力の高い複合施設として整備し、「中心市街地活性化の核となる施設」としての役割を担っています。

tette では市民によるボランティアも活発です。

こちらでは「tette パートナーズクラブ」という個人登録制ボランティア組織を立ち上げています。市民の方々の経験や知識・社会参加への意欲を生かし、市民交流センターの運営に携わることができ、組織の中で「おもてなし部」や「図書部」「広報部」といった部活動のような活動体制が確立されています。そこでは、図書の整理やセンターの広報紙作成、イベント運営だけではなく、館内にあるラジオ局の番組作成手伝いなど、様々な活動がなされています。1階にチャレンジショップブース。市民の企業支援も行っています。配架方法が独特で、施設全体が図書館になっている。例えば、調理室の近くにレシピブックを配架するなど、利用者の目線やライフスタイルに合わせた配架。そのため人的労力がかかりますが、そこをパートナーズクラブのメンバーが支援しています。たいまつホールでは定期的に映画上映なども行い、常に人の利用が多い。子ども図書館は2階。施設にはわいわいパークや子どもセンターのほか、預かりルームがあり、有料で専属の保育士に子供を預けることができ、親が施設で図書館や貸し館を利用している間、子供を預かってもらうことができます。

須賀川市がウルトラマンやゴジラといった特撮で有名な円谷英二さんの故郷ということもあり、最上階に円谷ミュージアムがあります。テラスでゆったり本を読むことも可能。4階にはラジオ局。防災や地域の魅力発信を強化しています。以上です。

事務局 つづきまして。那須塩原市図書館みるるについて、復命書と書かれた資料をご覧ください。策定委員12名とともに視察にいきましたので、説明の方は手短にして、委員様からもご意見を頂戴したくおもいます。延床面積は4,654㎡、事業費は2,596,000千円であり、国交省の補助金、社会資本整備総合交付金を用いております。ランニングコストはTRCへの委託費、1億1千500万円、その他水光熱費等が掛かっております。図書館の特徴として、おしゃべりや飲食が可能であり、公衆無線LANの完備、カフェが入居していること等があげられます。つぎに大田原市図書館について、こちらはトコトコ大田原に入居している図書館であり、その他、子どもが遊べる施設やマルシェが入居していることから、建設費は52億円と高額になっております。こちらも社会資本整備総合交付金を活用しています。ランニングコストはTRCへの委託料と、他、水光熱費は市が負担しております。以上です。

副委員長 それでは次に参加者からの感想ということで、私からよろしいでしょうか。みるるは本当にきれいで、図書館という概念が覆されました。ここではあまり制限を設けていない、飲食だったりおしゃべりが、常識的な範囲で、ですが許されています。実は、視察の後に、個人的に子どもを連れて再度見学してきました。日曜日だったのですが、結構学生が勉強していました。1階のホールでは子どもがちょっと走ったりしてましたが、2階は学生がきっちりと勉強していて、視察の際に説明して下さった方が、公衆道徳やルールを守る意識の形成に一役かっていると言っていたことが、なるほどな。と思った次第です。本の並べ方をや角度をそろえることを決められているということを書いていましたが、利用者それに気づいているかは定かではないですが、職員のそういう意識は大切だと思います。次にトコ

トコ大田原ですが、みるるの後でしたので正直インパクトが弱いなと思いました。決して悪い図書館ではないのですが、視察したのが休館日だったということもありイメージしづらいというのが感想です。お金の糸目がなければ、いいものを作ってあげればと思います。いろいろな事例のいいとこどりができたらなと思います。

委員 みるるは、出来立ての図書館で、本当に最近の図書館、広くて明るくて、ここに一日居たいと思わせてくれる図書館でした。みるるでいいと思ったのが、学習スペースでして、静かに勉強したい人や、わいわい勉強したい人、様々な学習スペースが提供されていることが印象的でした。おしゃべりが禁止ではないことから、話しながら、相談しながら勉強することもできて、益子町にもそういう環境を作ってあげられたらすごくいいなと思いました。トコトコは、みるるを見てからだと手狭な感じはしました。ワンフロアに収められていることからどうしても仕方がないのかと思います。しかし、資料を見てみると、郷土資料など古い物の蓄積がしっかりとされていて、職員の努力が見えました。学校への貸出として、子どもたちにもわかる資料を提供するという課題について質問したところ、それについて苦心されていること等、共通課題として認識を共有することが出来ました。一方でみるるは出来立ての図書館なので、そういった質問に対して、職員の方が答えに詰まってしまったり、まだ出来立ての図書館なので、これから良くなっていくとは思いますが、その点も印象的でした。

副委員長 ありがとうございます。次にアドバイザーより一言お願いします。

アドバイザー いろいろ見に行っていること、非常に有益だと思います。現状難しい点もありますが、お出かけの際、近くの図書館に見に行ってみてください。よその町でどのように図書館が使われているのか、などを見るのは非常に重要です。新しい施設は立派ですが、5年10年たてば古くなります。しかし、地域のみなさんに利用されている施設はかならず賑わいがあります。そしてもう1つ大事なものは、その施設だけが賑わっているのではなく、周辺全体に活気をもたらしているかを見ることです。最後に、その図書館に行って、使ってみてください。例えば皆さん益子の人なので、普通の人より、焼き物に対してリテラシーをお持ちの方が多いと思います。ですから、よその町の図書館で、益子焼について調べるとして、どれくらいの本があるだろうか。図書館員は質問にどれくらい答えられるだろうか。たとえば益子焼について1冊も本がない図書館なんて少しやばい図書館です。それくらい益子焼は有名ですので、皆さんが知りたいと思ったことに答えられるか、ないならないで、図書館の職員がどのように対応できるか、そのような観点からよその図書館を見て、使ってみてください。

副委員長 ありがとうございます。以上で視察報告を終えたいとおもいますが、何か質問等ございますか。

委員 質問じゃないのですが、私もみるるに行ってきて、そこの方と20分くらいお話しさせていただいて、心に残ったことを少し共有させていただければと思います。この方はみるるの管理の方に携わっているようで、管理費の部分で、ガラス面積が多いことや、二階部分のカーペットであることから、管理費が掛かってくるのではないかということと、一般の図書館にくらべて収蔵量が少ないのではないかということをご意見を伺いました。これから新しく図書館を建てるとして、なにかアドバイスはありますか。とお聞きしました。維持費は設計コンセプトからガラス面が多くなり、クリーニング代が

かかってしまう。道の駅のようなお金を生む施設ならそれをペイできるが、お金を生まない施設なので、そういう部分を考える必要がある。カーペットは、2階部分の音が響いてしまうので維持費がかかるがやむを得ずカーペット貼りにしたということでした。書架の間隔が広いので、本来なら50万冊が入るところを20万冊に止まっている。これが良く働くか、悪く働くかは、中で働く人の腕次第。アドバイスとしては、拡張性をどれだけ持たせられるか。建物自体が町にもたらす影響、建物がいつか付随でなにかを建てなくてはいけないかもしれない。その近くに何かを建てたいと思った時に建てられるスペースを確保したほうが良いかもしれない。それを確保したうえで、今必要なサイズで建てるのが重要。人口の関係から、益子は掛けられる予算が比較的少なくならざるを得ない。だからこそ、何かに特化することも戦略的に必要だと思います。とおっしゃられました。以上です。

委員 質問です。基本的なことなのですが、益子町は運営するにあたり、直営で行うのか、委託するのか決まっているのでしょうか。

事務局 基本構想の段階では、直営、指定管理、PFI事業、どうするか結論付けていなかった。委員会のなかでいろいろなところを視察し、検討しながら、最終的には町のほうで決定する予定です。今日、まずは建設予定地を委員様のほうで議論していただき、そこでの意見等を検討材料として町の方で決定します。ですので、皆様と検討を進めながら、決定していきたいと思いますので、現状、決定していることはありません。

副委員長 ほかありますか。無いようですのでつづいて、アンケートについて。に移ります。それでは事務局より説明をお願いします。

事務局 今回、町内の幼稚園・保育園、小中学校の保護者と、小中学校高校の児童・生徒を対象に実施しました図書館建設に関するアンケートについて、主要な調査項目を抜粋して報告します。

まず、新図書館に充実してほしいサービスという項目で、保護者を対象に行ったアンケートで最も多かったのは、「持ち込んだパソコンやスマートフォン等がインターネットに接続可能になるサービス(Wifi設備)」であり、次いで「公共施設などで本の返却が出来るポスト」でした。3番目に多かったのは「調査相談、レファレンスの充実」に関する項目です。

そして、児童生徒を対象に行ったアンケートでも、Wi-Fi設備について、中高生に顕著ですが、それ以外の項目についてはほぼ同様の傾向性を見ることができます。

この二つのアンケートを比較したものがこちらのスライドになります。図書館に求められるものとして、コワーキングスペースとしての利用や、調査、学習には、オンライン環境は必要不可欠といっても過言ではありませんので、オンライン環境を快適に利用できるよう整備する必要性が見て取れます。次に多かった意見は、公共施設などで返却できるポストでしたが、これについては、確かに図書館の利便性向上という観点から見ても重要であり、他の図書館においてもこういった事例は見られるかと思います。また、さらに踏み込んで、予約図書を受領も、直接図書館に出向かずとも、出先で受け取る事ができれば全町民にとって、より便利になるかと思います。今後の議論を通して、どのような制度設計を行うか問題点の洗い出しを行いながら、こういったサービスの実現可能性についての検討を行っていく必要があるかと思われまます。

次に、新図書館に充実してほしい図書は何ですか？という調査項目について、保護者アンケートでは、

子ども向けの図書（読み物）が12%と一番高く、「大人向けの図書（料理・旅行等の実用書）」と子ども向けの図書（絵本・調べものの本）の2項目がそれぞれ11%、ついで中高生向け図書と大人向けの図書（小説、読み物）が9%となっております。

中高生アンケートでは、「中高生向け図書」が16%と最も多く、大人向けの図書（小説）」と「DVD」が11%、「CD」「大人向けの図書（料理、旅行等の実用書）」が10%と続きます。

保護者と中高生を比較して、顕著なのは、「子ども向けの図書」との項目に大きく開きがある一方で、そのほかの項目については、それほど大きな差はありません。

子育て世代が「子ども向け図書」をもっとも必要としており、中高生はやはり「中高生向け図書」にニーズがあるという点は確かですが、それ以外については、特に突出した値があるわけではありません。資料収集は図書館において非常に重要ですので参考にしたいと思います。特に、子育て世代に対する手厚い児童サービスを提供できることと、図書館の貸出について、減少傾向が見られる中高生世代、いわゆるヤングアダルト向けのサービスについては、日本中の図書館が課題としているところでもあるので、しっかりとフォーカスしていく必要があるとここでは結論づけます。

配布資料の4ページをご覧ください。

小学生アンケートは、調査項目の違いから別にしております。また、設問が少なかったために、配布資料の表では、その他が21%となっておりますが、それぞれの記述をもとに集計しなおしたところDVDが43%、CDが21%、次いで小説・物語が7%、漫画が6%でした。そのほかの項目については、3%以下でそれぞれ分散しています。

次に、新図書館に期待するスペースについて。

保護者アンケートでは、1番多かった意見は屋内でゆっくりくつろいで閲覧できるスペースで17%、次いで自習、仕事ができるスペースが14%、飲食できるスペース13%と続きます

中高生では、屋内で読み聞かせができるスペースと自習スペース、飲食できるスペースが共に17%でした。それに次いで自販機スペース、グループで話すことが出来るコミュニティスペースと続きます。

保護者と中高生を比較すると、子どもに関する項目に差がある以外は大きな乖離は見られませんでした。小学生へのアンケートでは、図書館の中でゆっくりしたいが18%、友だちと一緒に話しながら宿題や勉強をしたいが16%、飲食したいが14%でした。

この調査項目では、滞在型の施設と学習の場としての図書館を求める声への比重が大きかったと結論づけられます。

つぎに、アンケートの自由記述欄、新図書館についての意見ですが、小中高生の意見では、小学生では、ゆったりとくつろげる場所、みんなが気軽に立ち寄れる施設、子どもが遊べるスペースといった意見が多くみられ、中高生になると、1人でくつろげる場所、勉強する場所としての図書館を求める声や、現状の図書室では、ライトノベル等の中高生向けの小説は少ないので、そういった図書を置いてほしいという意見が見られました。全体的傾向として、図書館が欲しいといった声が多く見られたことはこのアンケートのひとつの成果だと思えます。誰が図書館を必要としているのか、ということ議論するとき、時として、誰も図書館なんて必要としていない。であったり、図書館なんてなくてもインターネットで十分という意見がしばしば聞こえてきます。そういった意見を単なるノイジーマイノリティと位置付けるわけではありませんし、逆にそういった意見に対し、図書館があることでどのようなことが可能になるかを明確に提示することはこちらの責任だと思えます。しかし、図書館なんて必要ない、だれも使わないという意見に対しては、ここでのアンケートで挙げられた図書館を求める声をもって反証とするこ

とができると思います。

次に子育て世代からの意見で多く見られたのは、子どもが小さいとどうしても大きな音を立ててしまうので連れて行きづらい。子どものスペースを作ってほしいという声や、子どもを連れていくことが難しいので、図書館に行く手段としてバスや、移動図書館がほしいという意見、しっかりとした選書とそれが出来る人材の配置、育成をしてほしいという声がありました。また、コスト面から財政負担を憂慮する声も挙げられており、この点については引き続きしっかりとした説明を行えるよう、財政上の裏付けを行っていく必要があると考えております。

今回のアンケートで頂戴しました意見、特に自由記述について、たくさんの貴重なご意見をいただいております。こちらの資料をお家にお持ち帰りいただき、お目通しいただき、今後の会議のなかでも、検討材料としていきたいと思っております。以上です。

副委員長 アンケートについて、アドバイザーから一言いただけますか。

アドバイザー アンケートの解説ありがとうございます。皆様にとってもこういう包括的なアンケートはいままでなかったので、結構参考になる場所があったのではないのでしょうか。今説明にもありましたように、重要なのは、数字で表れてる部分も大事ですが、自由記述で、なかなかリアルな声を聴くことができると思います。これからもこうした調査を行ううえで大事なことが2点あります。一つは量的な調査であり、もう一つは質的な調査です。ひとりひとりの声に耳を傾け、その中に含まれている将来への展望や鋭い洞察に耳を傾けていくという調査方法。

100万人規模の町でひとりひとりの声に耳を傾けることは難しいが、益子のような、町の規模であれば、特に若者あるいは保護者世代の声にひとりひとり耳を傾けていくことは十分可能だと思います。ですのでこれから、量の部分と質の部分、両面みていくことが重要かと思われれます。このアンケートで、図書館を必要とする声が掘り下げていけば見えていく一方で、現時点において町に図書館がない以上、町の人たちが図書館に抱くイメージは、一階にある既存の公民館図書室に縛られる。人は見えているもののイメージに縛られるし、見たこともないもの、体験したことの無い物をイメージすることはとても難しい。ですのでここにあるのは最低限の話だと捉えておいてほしいです。もっとこういうことができるんじゃないか。という発想が、なかなか見たことがない人には難しい。ですので、これから議論をしていくにあたり、図書館はかくあるべきということは今は置いていただいて結構です。図書館法に図書館はかくあらねばならないとは記載されていません。最低限のことが書かれているに過ぎない。

ですので、今後の議論で、先ほどアンケートにあった声、たとえば漫画などの充実、漫画なんてけしからんという考えもあるかもしれません。しかしこの一年鬼滅の刃が非常に話題を呼びました。図書館で鬼滅の刃が読めてもいいじゃないでしょうか。実際、20冊以上もの漫画本だと、買い集められることも、そうでない子に分かれると思いますですが、でもみんな同じ益子の子どもたちなら、そこに差がつかないようにして挙げるのも大人の役割ではないでしょうか。というように、議論を進めていくうえで、こうあるべきだという考えに縛られず、様々なことが可能であるという視点から、今後議論していければと思います。以上です。

副委員長 ありがとうございます。皆様から質問があればお願いします。

委員 アンケートで、4つの場所の候補についても調査項目を入れてもらいたかったのですが

事務局 今回実施しましたアンケートですが、莫大な量のアンケートを行いました。子どもの読書活動に関するアンケートと建設に関するアンケートがあったので、ボリュームは大きくなりすぎたこともあり、本当であればそうしたこともアンケートに盛り込みたかったのですが、今回は実施できませんでしたので、可能であれば、後々そのようなことも実施していければと思います。

副委員長 質問がないようですので、つぎの議題、ワークショップについてに移らせていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局 12月17日木曜日にワークショップを行いました。それ以降、様々な形でのワークショップ実施を計画しておりましたが、コロナウィルスの情勢から、実施を見送りました。

昼間の部は3人、夜の部は7人の方が来られました。ファシリテーターには、アドバイザーになっていただきまして、様々な意見が出されました。前方のスクリーンの右手に、ワークショップで出されました意見を張り出しております。この議題が終わりましたら、休憩を取りますので、その際にご覧ください。

新しい図書館ができたらどのようなことがしたいかをテーマに、いろいろなご意見をいただきました。本来であれば地域ごとに、また各団体ごとにワークショップを進めていきたくったのですが、今後は、春先を目途にワークショップを定期的実施したいとおもいます。ここで、ファシリテーターをしていただいたアドバイザーより、ご意見いただけますでしょうか。

アドバイザー ワークショップ、全然できていないことは残念ですが、この状況で無理に実施してなにかあれば洒落にならないので、今は我慢の時かと思われま。私共一日、午前、午後と実施させていただきまして、今後もこういった機会を設けていきたいとは思っています。ワークショップでなにか重要か、ご参加いただきました方々にも話しましたが、みんなで話し合っ合意を作る必要はありません。まだまだいろんなことを考えて行く段階です。どこかでなにかを決めなければなりません、それまでに絞り込んでいったり、考えを狭く狭くしていく必要はありません。今の段階ではなるべく広く深く考えて行くことが必要です。合意を作ろうとすると、だいたいの場合、いちばんつまらない案になります。ちょっととがった考え方はどんどんつぶされてしまいます。ここで重要なのは、さっき仰られた、新しい図書館で何がしたいかであったり、お互いに、どんな風に考えているのかを知り合っていくことです。これだけの人数が今日もいますので、みんなが「したいこと」で合意を得ることは出来ません。いまキャンプが流行っていますが、みんながみんなキャンプしたいわけではない。アウトドアが好きな人もいればインドアの人もある。今大事なのは、ひとりひとりが自分のやりたいことを追求できるようにすることです。その過程で、この人はこういうことがしたいんだ。私はこういうことがしたい。お互いに考えに合意はしないけど、いいんじゃない？という風に思うことはできますよね。それが、公共施設で、税金を投入してやることなのかということに最終的にはなっていくと思いますが、今の段階ではそれぞれがどういう風に考えているのかを知ること。それがワークショップで最も重要なことだとおもいます。それがアンケートの際にもいいました、質的な調査になるわけです。ただの数字では表すことのできない、どんな思いをもっているのかを見ることです。今後のコロナの状況、決して甘くは見えないので、人の集まることの困難さから、いまどのように実施するかを事務局と共に考えているところです。しかし、

大事なのは集まることではなく、町の人がどんなことを考えているのかを知る機会をもつことです。そこにポイントがあるとおもいます。ワークショップ、こういう風にしたらいいんじゃないか。といった意見、皆様の経験から、このように実施すればいいんじゃないか。ということがあるかと思えます。そういったご意見もお聞かせいただければと思います。

副委員長 ありがとうございます。それでは、ワークショップに参加いただいた委員から感想をいただきたいと思えます。

委員 昼間の部に参加しました。3名の女性がお越しになり、前に掲示されているように、いろいろな気持ちを付箋に書いて貼らせていただいて、私が良いと思ったのは、ある参加者が「夜遊びの場」というのを言ったのですが、大人だったらいいんですが、中高生にはどうなんだろう。ってはじめは思ったのですが、図書館は年齢制限関係なくということで、こういう場所もあればいいのかな、と納得してしまいました。

カフェ・バーというのがあったのですが、それぞれ、どういう場所になるか、どういう形態かわかりませんが、みんなが気持ちに余裕が持てる場所という意味が含まれているのかなと思ひ、こういう意見が良いなとおもいました。

副委員長 ありがとうございます。

委員 夜の部に参加しました。自分が図書館についておもっていることをいいましょうということで、集まった人だけじゃなく、アドバイザーや町の職員の方も同じように言い合ったのですが、立場や職業、今までの経験、全部違う人たちが、フラットな状態でそれぞれの思いや考えを伝え、受け入れることができるという場はとても良かったと思ひます。私は自分が子育て世代なので、子育てに対して絶対こうしたいというのがあったのですが、様々な人の意見があるなかで、自分の意見はその中の一つに過ぎないという客観化ができたのはよかったです。いろんな人がいる中で、それぞれの意見を受け入れながら、それぞれのやりたいことがつながっていくところに面白さがありました。こういう機会の回数を重ねていきながら、たくさんの人に参加してもらいたいと思ひました。私が面白いと思ひしたのは、手仕事を図書館の特色にしたらいいいという意見で、益子焼自体は有名ですが、学校でも民藝という観点から教わる事が少ないので、民藝コーナーを図書館に設けるといひ意見が印象的でした。

副委員長 ありがとうございます。

委員 ワークショップが町の人も見られたらいいのと思ひ、その様子を録画させてもらいました。今、コロナの問題があつてどうしても人が一定人数以上集まるのが難しいということから、生身の人間が顔を突き合わせることにリスクを伴うということで、ヴァーチャルな方法で参加可能なワークショップの枠組みをつくりあげることが重要だと思ひます。例えば今、アドバイザーは、zoom を介して会議に参加していただけていますが、このようなやり方で、これからどんな状況下であってもある一定以上の人数がボーダレスに話し合いができる。そういう状況を整えていくことが大事だと思ひます。それは、今やだれもがもっているスマートフォンがあれば可能です。少しの勉強や練習は必要ですが、それが可能な社会であるということは素晴らしいことだと思ひます。ワークショップは非常に有益でしたが、そ

の一方で、次の枠組みを考えて行く必要があると思いました。

副委員長 ありがとうございます。何か質問はございますか？無いようですのでここで15分休憩を取ります。

事務局 スクリーン横に、ワークショップで出された意見と、次の議題に関係する防災マップを掲示しています。休憩の間にご覧いただければ幸いです。

事務局 定刻になりましたので、会議を再開します。委員長が来られましたので、これからの進行は委員長にお願いいたします。

委員長 遅くなり申し訳ありません。早速議題に移りたいとおもいます。建設予定地は非常に重要ですので、しっかりと議論していきたいと思えます。それではまず事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは図書館建設予定地について説明させていただきます。基本構想検討委員会では4つの場所が示されました。基本構想検討委員会では、益子町役場周辺、いま区画整理事業を行おうとしているところを想定しております。2つめは陶芸メッセのあたり、高台になっている部分を想定しております。3つめは中央公民館付近、最後に益子駅周辺の4つが候補に挙げられています。場所の決定について、委員会で方向性を示し、最終的には町のほうで判断させていただくことになると思えます。

委員のなかでは、これ以外の場所についても意見があるかと思えますので、それについてもご意見いただければと思えます。

役場周辺から順に説明いたします。区画整理地の写真を前方に写します。現在区画整理事業が進行中ですので、今後、住宅地が増えていくことなどメリットとして挙げられます。また、小貝川や百目鬼川が付近にあることから、浸水想定地域ではないのかという話ですが、役場の東側の道路、郵便局のあたり。これより西側については、浸水想定地域ではありませんので、役場周辺であれば、事務局としては、そのあたりに図書館を建てることを想定しています。あとは区画整理組合との調整を行う必要がございます。区画整理事業はすでに動き出しているもので、少なくとも今年度中には区画整理地に建設を行いたい旨を伝える必要があるということで、本日、場所についてのご意見を委員会の皆様と議論させていただきたく思えます。

次に、陶芸メッセ付近ですが、こちらの高台、浸水想定地域から離れていること。城内坂や陶芸メッセが近いことから、これらとの連携が容易であることがメリットとしてあげられます。一方で、高台であることから、駐車場の確保が難しいことや、土舞台周辺についても、陶器市の際など、渋滞がみられることから、そういったデメリットが挙げられます。

益子町中央公民館周辺ですが高台にあることから、浸水想定地域外であること。中央公民館や体育館、中学校が付近にあることからこれらとの連携が考えられることがメリットとして挙げられます。一方で、中央公民館の敷地内ということであれば、このまゝに傍の畑を駐車場にしたことから、用地、駐車場の確保という点で課題がございます。

益子駅周辺ですが、真岡鉄道利用者の利便性、福祉センター等との連携が容易です。駅舎で勉強している学生がいることなどから、駅周辺に図書館ができれば、通勤通学の合間の図書館利用が見込まれます。デメリットは、駅周辺になると、東側は住宅が密集していること。西側は用地はありますが、閑散としていることと、どちらも浸水想定地域内になってしまっていることが挙げられます。

以上のことが基本構想検討委員会で挙げられたこととなります。

次に、建設について多額の費用が掛かるということで、町単費では難しいと考えます。そこで、先ほど、那須塩原市図書館みるのの説明の際に申したものと同一社会資本整備総合交付金を活用したいと思えます。現在は若干、制度、名称等が変わっておりまして、都市構造再編集中事業というものがあり、そちらを使えば、土地の購入や図書館の設計、建設に対して50%の補助を受けることが出来ます。ただし、中に置く什器類は補助対象ではありません。さらにカフェ等商業施設は補助対象外です。しかし、収入を得ることが出来る施設ですので、賃料を得ることが出来るため、長い目で見ればそういった施設の入居も検討できるかと思えます。この補助金が使えうる可能性がある場所としては、立地適正化計画という計画があり、前方のスライドで色が塗られている部分。真ん中あたりが益子町役場周辺から益子駅にかけて、こちらのほうが用途区域に指定することができます。この用途区域内で、面積比10%にあたる部分を、住居等を誘導するための、誘導区域という設定を行います。現時点で補助金が使えうるのは、その誘導区域にあたる部分になります。前の表をご覧ください。役場周辺ですと、誘導区域内に入っております。メッセ付近は誘導区域に入っておりません。中央公民館周辺も同様に誘導区域外となっております。益子駅周辺は、誘導区域内に指定可能です。しかし、先ほど述べたように浸水想定地域内となっております。ということで、候補地についてメリット、デメリットと、補助金の可能性についてお話をさせていただきました。以上です。

委員長 それではアドバイザーより、コメントをいただけますでしょうか

アドバイザー 場所の話は難しいですが、私も絶対的にここがいいということはありません。ただ、選択の余地があるのは恵まれたことだとおもいます。往々にして、こういった場所の話は、補助を受けられるか、または単に空き地があるかということで決まってしまうがちです。場所は決め打ちにならざるを得ないところが多い。そのため、場所を検討することが出来るというのは恵まれているのかと思えます。議論を行っていく上で、防災、減災という視点は非常に重要だと思われれます。数々の激甚災害を経験している私たちには、もはや想定外ということは言い訳できません。ですので、防災リスクが高い部分は原則的に避けたほうがよろしいかと思えます。特に私はこういった仕事をしていると、公共施設が市民のみなさんを殺すことがあっては絶対にいけない。楽しいはずの施設で、皆さんの生命、財産が危険に晒されるリスクがあるということは役所としては絶対に避けたいということ。二つ目の点は、後々の発展性を見られたら良いかと思えます。今は懐疑的な方もいらっしゃるかもしれませんが、図書館が出来れば必ず人が来ます。そして、相当数、利用される施設となります。後になったら笑い話になるくらい、面白いくらい町民の方が集まってくる施設になると思えます。そういうことが当たり前になります。となれば、周辺の地価は確実に上がります。宅地造成の余地がある地域のほうが、地域全体のことを考えればよいと思えます。これから、人口がすごく増えるという時代ではありませんが、人口を減らさない工夫や、若い方々で、この地域でやっていきたいという人を受け入れられる場所が必要です。益子町の場合、この点にすごく強みがあり、外からこの町に住みたいという若者が増えていくなかで、成長可能性が高い自治体であるがゆえに、周りに開拓の余地があるということが重要です。同時に、負の面で言えば近隣に住宅等が多すぎると、建物的に見えないように死角を作る必要などがあり、あまり周辺に何も無いようなエリアのほうが整備はやりやすいということが現実的な問題としてあると思えます。中長期的に見て、コストに影響してくるとおもいます。最後に、場所に関しては万人が納得する場所というのはありません。ただ、以前わたしが益子の地図を作った時、町民センターを中心に半径5キ

口圏を示したとき、中高生の足であれば行き来できる圏内で、比較的、どこに立地していても町内においてものすごい格差があるわけではないと思います。まとめると、防災減災、発展可能性、そして、どこに立地した場合でも、利用者の可否という観点で顕著にデメリットはないということです。

委員長 ありがとうございます。なにかご意見、ご質問はありますか。

委員 質問ですが、役場周辺で行われる、益子町役場周辺土地区画整理事業というのが、よく理解できていないのですが、たとえば都市計画とは別なのでしょうか。どちらにしても地主さんの意向があって、土地を購入するために、組合に入っていくということで説明がありましたが、図書館を建てるためには土地がかなり必要です。役場に駐車場があるといっても歩くとなると不便ですので、駐車場等を含む用地確保にあたり、実現可能というのはどれくらいあるのでしょうか。ここに建てることに決めました。でも実際には建物分の土地しか確保できなかったでは後で困ってしまうので、この辺の具体的見通しやお考えをお聞きしたい。

事務局 区画整理事業、簡単に行ってしまうえば、七井地区のベisia付近の整備と同様の方式です。ああいう風にショッピングモールを作るというのではありませんが、今、田んぼや耕作放棄地になっている場所があるところをきれいにして、住宅等にするとという事業のなかで、住宅以外の施設として、図書館であったり、あるいはベisiaのような商業施設が入るということもあり得る。いろいろな条件があるなかで、図書館にはどれくらいの面積が必要かということもまだ決まっていないことから、場所を先に決める必要があるのか。あるいは施設の内容を先に決める必要があるのか。という話になってきます。しかし区画整理組合がすでに動き出しているなかで、図書館が入るのであれば今年度中に決めなければ、別の場所で検討を進めなければならないということがありますので、今回、委員会として候補地を示していただきたいと思います。いろいろな意見があると思いますが、アンケートでもあったのですが、みなさん家の近くが良いという意見が多い。また、どこの地区が良い。どの施設と隣接したら良いという意見があります。しかし、冒頭お話ししたように、町単費では難しいところがございます。となるとやはり、区画整理地というのが一つの候補地となってくる。ですので、本日、委員会としては、この点を踏まえてどうお考えかを議論したく思います。もちろん委員会として今日決めることは出来ない。あるいは、区画整理地でない場所がよいという結論もあると思います。しかし、その場合にも、そういった意見も踏まえうえで最終的に町の方で場所は決定していくことにはなるとおもいます。

委員 もう一つ聞きたかったことが、仮に区画整理地内の半分を欲しいと言った場合に、町としてその分を取る事ができるのかということ。区画整理をするとなると地主がいるので、地主が拒めば用地取得は不可能なのか、あるいは法的に推し進めることが可能なのかということをお聞きしたい。

事務局 可能性という点では、区画整理組合と今後交渉を進めていく必要があるかとおもいます。基本構想が出来上がった段階で、組合の役員会のほうに候補地として挙がっている旨は伝えてあります。一つの候補地として入っていることを伝えただけなので、入れてくださいとかいった話をしているわけではありません。まだ、面積が決まっていないために、どれくらいほしいということを示すことは出来ないが、委員会として、ここを候補地として進めてよいとなれば、今後、組合の方と交渉を進めていくことになります。

委員 もしかしたら全然取得できない可能性もある？

事務局 土地の取得可能性については、組合との交渉次第になると思われます。

委員 その組合というのはい体どういう組織で、誰がトップとして構成されているのかが見えてこないのだから、よするにその土地の地主で構成されている組合なのか？図書館つくと決定したとき、本当にその土地が取得できるのかを聞きたい。出来ないのであれば一つに絞ってしまうのはリスクが生じる。

ここまで1h40m

委員 区画整理事業は都市計画事業の一環です。通常、施工するにあたり、公共施工と組合施工という方式がある。今言っている組合施工というものですが、中身はほとんど一緒です。施工するにあたり、工事なりにお金がかかるので、その捻出にあたり、組合から必ず少しずつ減歩を行い、場合によっては施設の用地を最初から調整しています。そのため、公共施設の用地として取得したいというのであれば、用地を確保しやすい。町では必要ないというのであれば商業施設等の誘致を行っていくことになる。それが先ほどおっしゃっていた七井地区のベisiaのようなケースになる。まとまった、形のいい土地が、減歩という形で確保される。どういう方法で？という、仮換地ということを行っていく。仮換地のなかで、区画整理のエリアのなかで空いてる部分で確保しやすい部分を減歩した分を集めて事業用地としていくことになる。なので、駐車場の分も含めて用地取得可能性は高いと思います。

委員 これくらいの規模だとどれくらいの用地なのか。例えばベisiaくらいの規模の用地を得られるのだろうか。

委員 この土地区画整理事業は面積からすると、図書館を建てる、複合施設を建てるとしても十分な面積を得ることは可能だと思います。減歩率が何パーセントとかいろいろあるのですが、その辺はこれから区画整理組合の方が決定していくのですが、図書館用地分という意味では十分な面積が確保できると思います。

委員 区画整理の範囲というのは、組合が決定するのでしょうか

委員 この範囲に住む人のなかで同意を得ていくことになります。町の方で、区画整理を行うにあたりこれだけの場所を範囲として実施したいというなかで、地権者に、組合に加わってほしいと同意を得てきたエリアになります。

委員 それに関して、郵便局のところの細い道路の、地図で右側が浸水想定になっているということですが、いろいろ皆さん希望を話すのも結構ですが、町として想定する事業コスト、面積等の規模、そういうものがぼんやりして見えてこないと感じている。区画整理について、浸水想定地域だということが分かったうえでなお区画整理を行っているのでしょうか。なにかしらの対策を行うのか、その辺を考えているのでしょうか。というのも、宇都宮の水害の際に、売り出し中の土地が浸水して、まったく

売れなくなったという話を聞いたことがあるので、その点そうなのかお聞きしたい。

事務局 区画整理については建設課が所管としている事業ですので詳細を正確にお話しすることはできないのですが、現在すでに建物が建っているの、そこから上げるというのは難しいと思います。ですが、なんらかの対策を行うと思いますので、必要があれば次回会議の際には、建設課の担当職員を呼んでご説明させていただきたいと思います。

委員 ありがとうございます。先ほど防災、減災は重要だという話をしていたところ、建てたものが浸水したでは困りますので。

委員 何となく地主さんの気持ちとしては、浸水しそうな土地は町にあげるから、大丈夫なところを欲しいと思ってしまうというか、町が図書館を欲しいというときに、どの場所をもらえるのか、浸水するリスクの低い土地を得ることが出来るのかが心配だと考えています。

委員 区画整理組合のなかに、図書館を入れてほしいとなったときに、策定委員会としても関わっていくことになるのでしょうか

事務局 委員会というより、町が購入するので、区画整理地の中から減歩を出して、それが何割になるのかはまだわからないが、その土地の分を組合としては売って、収入を得なければならない。その相手先が町なのか民間なのかは、組合の総会で決定する。町としては組合に働きかけて交渉していく形になります。

委員 本にとって水に浸かるというのは絶対に避けなければならないこと。浸水想定地域外であったとしても、甘い想定のために水害で濡れてしまったでは説明がつかない。電子資料にしても、サーバーなりで管理するというのであれば、水に濡れてしまっただめなので、防災、減災という観点が一番重要だと思う。絶対に水に沈まない場所でなければならないという前提を持つ必要ではないか。

委員 私自身、区画整理事業の内容を多少知っているものですから執行部に僭越ではあるがご説明させていただくと、当然、浸水想定地域はわかるので、それを避けるための治水を行い、道路建設等だけでなく、下流側へ調整池をつくります。また、確保した土地を保留地と呼ぶのですが、これを高く買ってもらう必要があるわけで、町がいないというような土地、使い物にならない土地を設定するということはないと思われます。区画整理事業のなかで確保するのであれば、条件的に恵まれた土地を得ることが出来るのではないのでしょうか。

委員長 防災減災の視点を前提としなければならないということ、激甚災害を前提として用地を考えなければならないなかで、他に何かご意見ありますか。こういった意見を踏まえたうえで、自分はここが良いということ多数決を取り、委員会の意見として町の方に伝えてもらうということによろしいでしょうか。それでは一人1票で手を挙げていただきます。

委員長 それでは役場周辺が一番多かったということで、本日の議論の内容と併せて、一番多かった意見は役場周辺であったということによろしいでしょうか。

委員 もし浸水想定地域を用地として充てられる場合は再検討する旨を合わせて伝えてもらいたい。

事務局 今の時点での委員会の意見ということで、安全性を第一として、広さの確保について、今後調整を行い、みなさまにご報告させていただきたいとおもいます。

委員長 それでは、もし変更があれば随時お知らせいただくということで、次にその他へ移らせていただきます。

事務局 それでは(5)のその他ということで、認定こども園だから幼稚園様の家庭教育学級において、図書館のワークショップを行っていただきました。また、益子芳星高校のほうで、町民大学のアクションプランづくりのなかで出た提案についての報告と、ただいま作成中の子どもの読書活動推進計画について、今後の図書館づくりにも関係してくることがございますので、次回ご報告させていただきたく思います。それでは、たから幼稚園のワークショップについてご報告をお願いします。

委員 本園の遊戯室において、意見交換会という形でワークショップを実施いたしました。現役のお母さん方と、すでに卒園された親御さんが参加いたしました。また、公民館より3名お越しいただきました。基本構想についての説明をいただいた後に、さあ、どんな図書館がほしいですかということと、4か所の候補地どこが良いかということをお話したら、4か所に分かれまして、それぞれ一長一短あると思いますが、図書館でどんなことをするかで変わってくると思います。ただ非常に要望が強かったのは、カフェ、それもただのカフェでなくスタバが欲しいという意見でした。スタバがあれば必ず人は来るとのことと、益子焼とのコラボなども可能なので、オリジナルカップを買いに、世界から人がやってくるということを言っている人もいました。以上です。

事務局 ありがとうございます。つぎに町民大学からの提案として、高校生が主体として実施したアクションプランづくりのなかでユニバーサルデザインを取り入れた提案書をつくっていただきました。本日の配布資料の中に資料として配布しておりますので、こういった高校生の意見も取り入れていきたいと思えます。次に、次回会議日程に移りたいと思えます。3月17日水曜日午後15時からこの会場で行います。ただし今回の緊急事態宣言のような場合、延期が見込まれますのでメール等で連絡させていただきます。

事務局 本日は様々なご意見をいただき、活発な議論を行っていただきありがとうございます。次回も引き続きよろしく願いいたします。

以上